

太平洋イカ類漁場調査 (抄 録)

鈴木 史 紀・川 村 俊 一

1994年6月～10月に東経 156度以西海域で、試験船東奥丸（釣機台数14台、放電灯 2 kw×60灯）、開運丸（釣機台数14台、放電灯 2 kw×60灯）でスルメイカ・アカイカの漁場調査等を実施した。

ス ル メ イ カ

1994年本県太平洋沿岸域に来遊したスルメイカは、例年6月下旬～7月上旬に漁期入りが始まるのが今期は6月上旬に漁期が始まり好調に推移した。しかし、8月下旬のイカ漁場調査結果では魚群の密度・広がりが1993年と比べ低い水準であったこと等から南下期の漁獲水準は低調であった。

一方、例年6月下旬のイカ一斉調査での外套長組成は単峰型を示すのに対し、1994年は双峰型を示し、小型・大型の群がみられた。この大型群は津軽海峡から来遊したものか、本来の太平洋の資源を支えている太平洋北上群であるのか今後明らかにしていく必要があると考えられる。

ア カ イ カ

1994年のアカイカの漁獲量は32,000トン余りで、1993年の4倍であった。これは、漁獲努力量の増加が漁獲量の増加につながった要因の一つとして考えられる一方、漁場一斉調査等の漁場調査結果から、釣り漁場に来遊したアカイカ資源自体も大きいものであったものと考えられる。

発表誌名

平成6年度イカ釣り漁場開発調査資料20号（平成7年5月）

平成6年度外洋性イカ（スルメイカ・アカイカ）に関する生物測定・標識放流海洋観測結果基礎資料集（平成7年5月）青森県水産試験場